

調査結果

直近の妊娠の経験

調査では、まず、これまでの妊娠回数を尋ねた。一番最近の妊娠(以下では、「直近の妊娠」と表記)から、過去3回までの経験について、マトリックス方式で尋ねた。ここでは、直近の妊娠の結果のみを報告する。

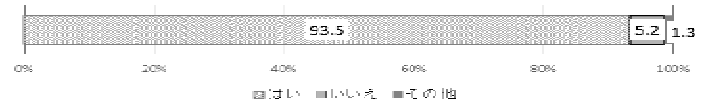
妊娠の経験1 妊娠前の子どもの希望

「その妊娠がわかる前から、あなたは子どもが欲しかったですか」との質問に対し、「はい」「いいえ」「その他(具体的に)」で回答してもらった。

直近の妊娠について、医療機関調査では記入のあった154名のうち「はい」が93.5%であった。保育園調査では、記入のあった373名のうち「はい」が92.2%となっており、いずれも9割が、直近の妊娠がわかる前から、子どもが欲しかったと回答している。

「その他」の具体的な内容では、「すごく欲しかったわけではない」「どちらでもない」「自然に任せたかった」などの記述がみられた。

図1 医療機関 子どもの希望



n=154、ただし、無回答2を除く

図1 保育園 子どもの希望



n=373、ただし、無回答5を除く

妊娠の経験2 計画した時期の妊娠か

「計画していた時期に妊娠しましたか。」との質問に対し、「はい」「いいえ」「その他(具体的に)」で回答してもらった。

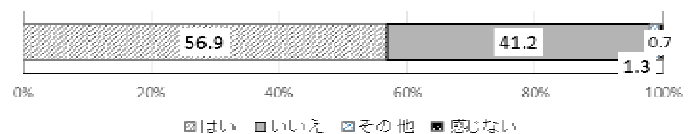
医療機関調査では、回答のあった153名のうち、「はい」56.9%、「いいえ」41.2%、その他2.0%であった。

保育園調査では、回答のあった368名のうち、「はい」57.3%、「いいえ」39.1%、その他3.5%であった。

「その他」の具体的な内容では、「あきらめていた時だった」「計画というほどのことはしていない」といった記述があった。また、「不妊治療中」という記述もあった。これは、はい・いいえでは回答できないことを伝えたかったと思われる。

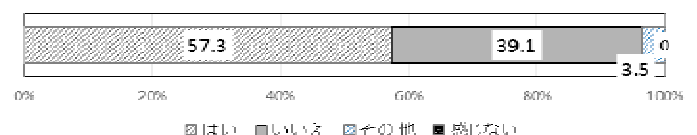
先の質問から子どもを希望していた人は9割を超えていたことがわかったので、直近の妊娠において「計画していた時期に妊娠した」と回答したのは、およそ半数となる。

図2 医療機関 計画した時期の妊娠



n=153、ただし、無回答3を除く

図2 保育園 計画した時期の妊娠



n=368、ただし、無回答10を除く

妊娠の経験3 診断前に妊娠だと感じた時

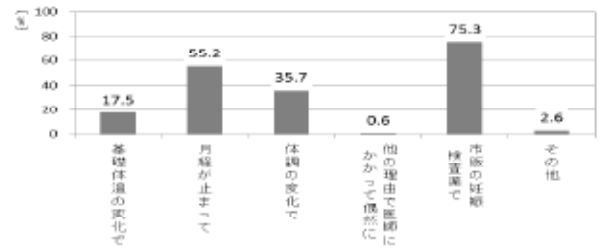
「医療機関で妊娠が診断される前に最初にご自身で妊娠していると感じたのは、どのような時ですか」との質問に回答を求め、6つの選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらった(複数回答)。

医療機関調査、保育園調査ともに妊娠していると感じた時として、「市販の妊娠検査薬で」という回答が7割程度、次に「月経が止まって」が5割強、「体調の変化で」が3割強、「基礎体温の変化で」が2割弱となった。

「その他」の回答も数件あった。その内容は、「不妊治療中なので自分で感じる前に診断された」、「体外受精だったので」、「予感」などが挙がっていた。

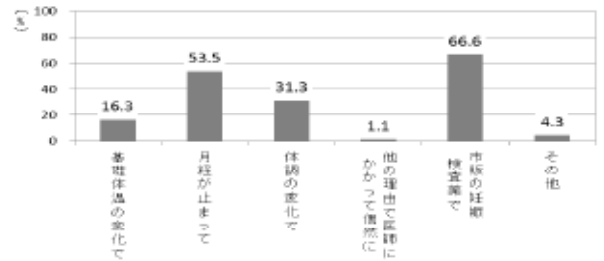
選択肢の組み合わせは、医療機関調査では、「検査薬」と「月経が止まって」と回答した人がもっとも多く22.1%、「検査薬」のみが14.9%、「検査薬」と「体調の変化」が11.7%だった。保育園調査でも、「検査薬」と「月経」とした人がもっとも多く19.3%、「検査薬」のみが17.6%、「月経が止まって」17.6%となった。

図3 医療機関 妊娠だと感じた時



n=153、ただし、無回答3を除く

図3 保育園 妊娠だと感じた時



n=374、ただし、無回答4を除く

妊娠の経験4 胎児の存在を感じた時

「あなたが胎児の存在を初めて感じた時を覚えていますか」という質問に対し、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では回答のあった150名のうち86.0%が直近の妊娠時に初めて胎児を感じた時を覚えていると回答した。

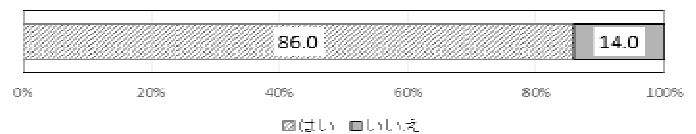
保育園調査では回答のあった358名のうち83.8%が初めて胎児を感じた時を覚えていると回答した。

いずれも胎児の存在を初めて感じた時を覚えている方が8割強にのぼった。

「はい」と回答した人に「具体的な時期やきっかけを教えてください」と尋ねたところ、医療機関調査120名、保育園調査では291名の記入があった。

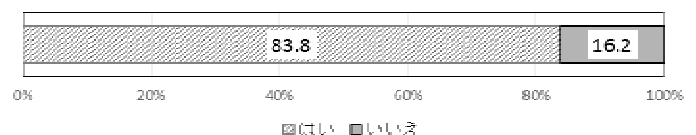
妊娠初期から中期、後期では異なる経験が記述されていた。初期に超音波検査で胎芽を見たことやドップラーによる心音を聞いた経験、自身のつわりの経験、中期の胎動の経験、超音波で成長した胎児を見た経験など、多くの記述があった。

図4 医療機関 胎児の存在を感じた時



n=150、ただし、無回答6を除く

図4 保育園 胎児の存在を感じた時



n=358、ただし、無回答20を除く

妊娠の経験4 胎児の存在を感じた時 ①具体的な時期やきっかけ

胎児の存在を初めて感じたときを覚えていると答えた人に、その具体的な時期やきっかけなどを尋ねた。

- 自由記述による回答があったのは、医療機関調査では117名、保育園調査では289名であった。
- 回答をアフターコーディングしたところ、表1に示したように、何らかの検査を媒介として胎児の存在を感じた経験について述べた回答、妊婦の身体感覚から胎児の存在を感じた経験について述べた回答、胎児の存在を感じた際の環境について述べた回答、その他に分類できた。その他には、感じた時期について述べた回答、拳児の希望があったことを述べた回答、上の子どもとの関係性について述べた回答などが含まれる。とくに言及が多かったのは、検査では、超音波(エコー)で胎児の画像を見たこと、身体感覚では胎動であった。環境は検査によって感じたという回答は医療機関として数えた。その他、設問に「時期」という表現が含まれていたためか、「いつ」感じたかについての言及が多かった。

表1 医療機関/保育園 胎児の存在を感じた具体的なきっかけ

	回答数(n)	自宅での検査	医療機関での検査・治療					身体感覚				環境要因		その他		
		妊娠検査薬	不妊治療	超音波ドップラー(心音)	超音波・エコー(画像)	写真	その他検査	妊婦の身体変化	胎動	つわり(初めてのつわりとは限らない)	雑(からだがたたく、何となく感じたなど)	場所(医療施設)	場所(医療施設以外)	妊娠時期への言及	拳児の希望	関係性
医療機関調査	117	8	1	3	33	4	0	14	36	18	15	39	1	55	0	1
保育園調査	289	15	3	5	108	13	0	26	95	34	24	120	9	94	1	0

妊娠の経験5 妊娠に気づいた時の気持ち

「妊娠に気づいた時、あなたの気持ちを一言で表すと、どのような言葉が当てはまりますか」との質問に、8つの選択肢から、当てはまるものすべてを選んでもらった(複数回答)。

医療機関調査、保育園調査ともに、「うれしかった」に約8割があてはまると回答しており、「わくわくした」「驚いた」「ほっとした」と続いている。また、「心配した」が2割弱、「困惑した」が1割強あった。

「その他」の記述では、「考えていたとおりだった」「不思議だった」「どうしよう」などがあつた。

妊娠に気づいた時の気持ちを「覚えていない」と回答したのは1%以下で、ほとんどの人が妊娠に気づいた時の感情を覚えていた。

回答結果をみると、多くの項目において医療機関調査の方が比率が高くなっている。その理由として、医療機関調査の方が、妊娠中の人と初めての妊娠で回答している人が多いため、妊娠経験の新鮮さが影響していると予想される。

図5 医療機関 妊娠に気づいた時の気持ち(複数回答)

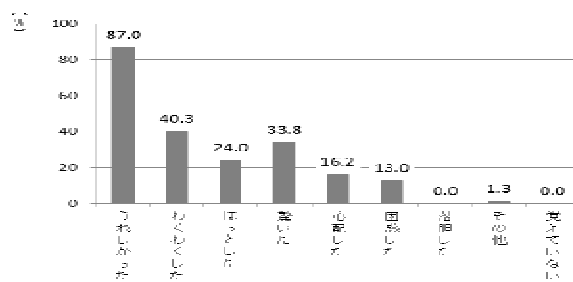
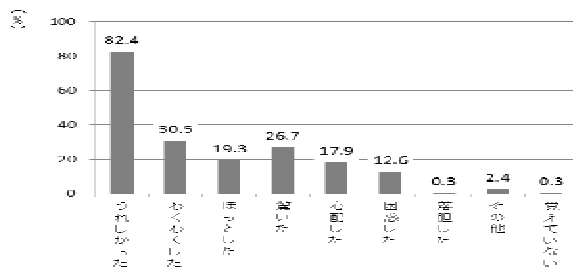


図5 保育園 妊娠に気づいた時の気持ち(複数回答)



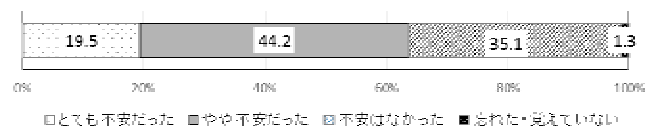
妊娠の経験6 自分の心身の状態の不安

「妊娠中のご自身の心身の状態について不安になったことがありますか」という質問に対し、「とても不安だった」「やや不安だった」「不安はなかった」「忘れて覚えていない」の4つから選択してもらった。

医療機関調査では、「とても不安」19.5%、「やや不安」44.2%と、6割強が妊娠中の自分の心身の状態についての不安を感じている。

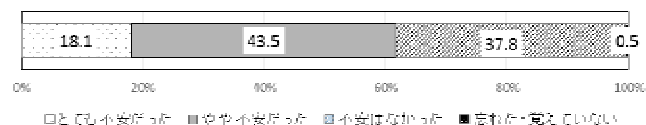
保育園調査でも、「とても不安」18.1%、「やや不安」43.5%となっており、約6割が自身の心身の状態についての不安を感じている。

図6 医療機関 自分の心身の状態の不安



n=154、ただし、無回答2を除く

図6 保育園 自分の心身の状態の不安



n=370、ただし、無回答8を除く

妊娠の経験6 自分の心身の状態の不安 ①具体的内容

「自身の心身の状態」に不安があると回答した人に、不安の具体的な内容について記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では93名、保育園調査では240名から回答があった。
- 回答が寄せられた具体的な内容は、大きく以下に分類された。
 - ①妊娠経過、②妊婦の生活環境、③障害、④胎児の生存、⑤震災・放射能、⑥医師との関係、⑦出産（出産時の異常、出産前後の体調、出産、婚姻関係含む）、⑧育児・出産後の生活、⑨その他・漠然とした不安、である。
- もっとも回答が多かったのは、⑧育児、出産後の生活に関することであり、医療機関調査では約30件、保育園調査では約100件の回答があった。具体的には「出産後に自分が子育てと仕事を両立していけるのか」、「弟か妹ができる事に上の子がうまく対応できるか。そして自分自身も」などといった記述だった。
- 次に多かったのは、①妊娠経過に関する事で、医療機関調査で約45件、保育園調査で約80件の回答があった。具体的には「一度流産していたので」や「つわり、逆流性胃炎のような症状」などがみられた。
- さらに、⑦出産に関しては、医療機関調査では約30件、保育園調査で約80件あり、具体的には「無事に産まれてくれるかどうか」、あるいは「初めての分娩に耐えられるか」などが挙がっていた。

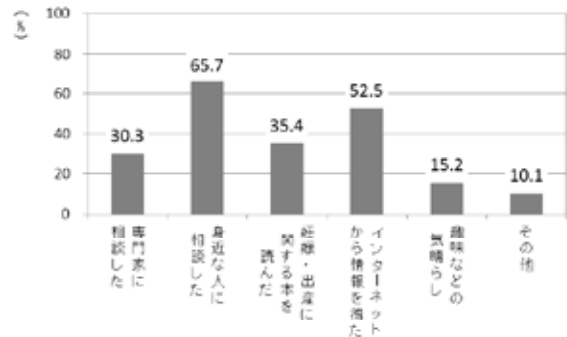
妊娠の経験6 自分の心身の状態の不安 ②不安への対処 【医療機関】

妊娠中の自身の心身の状態について不安になったことがあると回答した人に、「妊娠中のその不安について、どのように対処しましたか」と尋ね、6つの選択肢からあてはまるものすべてを選んでもらった(複数回答)。

医療機関調査では、不安への対処として「身近な人に相談をした」、「インターネットから情報を得た」、「妊娠・出産に関する本を読んだ」の順となっている。

医療機関調査では、およそ1年前の妊娠を回答している。近年のパソコンやスマートフォンの普及など、情報検索メディアの変化が、妊娠に関する情報検索にも影響があると思われる(妊娠の経験12も参照)。

図7 医療機関 心身の不安への対処(複数回答)



不安ありと回答したn=99、ただし、無回答3を除く

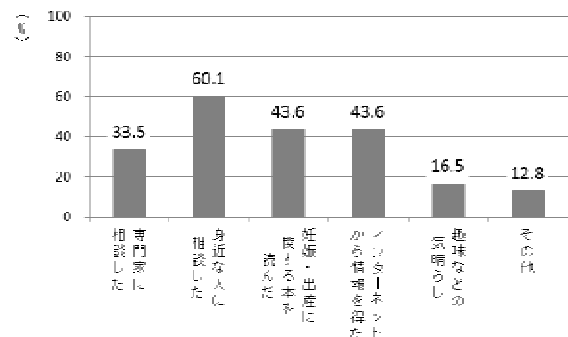
妊娠の経験6 自分の心身の状態の不安 ②不安への対処 【保育園】

妊娠中の自身の心身の状態について不安になったことがあると回答した人に、「妊娠中のその不安について、どのように対処しましたか」と尋ね、6つの選択肢からあてはまるものすべてを選んでもらった(複数回答)。

保育園調査では、「身近な人に相談した」、「妊娠・出産に関する本を読んだ」、「インターネットから情報を得た」の順となっている。

医療機関調査と保育園調査では、「インターネットから情報を得た」と「妊娠・出産に関する本を読んだ」の順番が逆転していた。医療機関調査では、平均して1年ほど前の妊娠を回答しているのに対して、保育園調査は平均して3年ほど前の妊娠を回答していることが影響しているのだろう。近年のパソコンやスマートフォンの普及など、情報検索メディアの変化が、妊娠に関する情報検索にも影響があると思われる(妊娠の経験12も参照)。

図7 保育園 心身の不安への対処(複数回答)



不安ありと回答したn=218、ただし、無回答10を除く

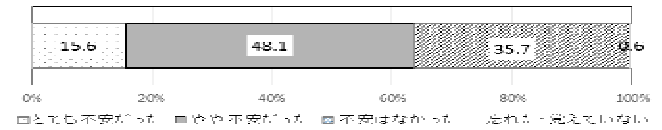
妊娠の経験7 胎児の状態の不安

「妊娠中の胎児の状態について不安になったことがありますか」という質問に対し、「とても不安だった」「やや不安だった」「不安はなかった」「忘れた・覚えていない」の4つから選択してもらった。

医療機関調査では、「とても不安」15.6%、「やや不安」48.1%と、あわせて6割強が胎児の状態についての不安を感じていた。

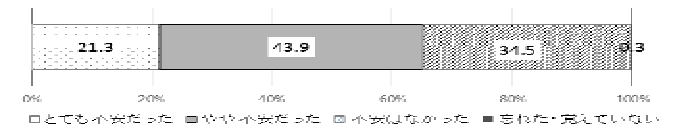
保育園調査でも、「とても不安」21.3%、「やや不安」43.9%となっており、同じく6割強が胎児の状態についての不安を感じていた。

図8 医療機関 胎児の状態の不安



n=154、ただし、無回答2を除く

図8 保育園 胎児の状態の不安



n=371、ただし、無回答7を除く

妊娠の経験7 胎児の状態の不安 ①具体的内容

「胎児の状態」に不安があると回答した人に、不安の具体的な内容について記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では94名、保育園調査では232名から回答があった。
- 回答が寄せられた具体的内容は、妊娠の経験6と同様、大きく以下に分類された。
 - ①妊娠経過、②妊婦の生活環境、③障害、④胎児の生存、⑤震災・放射能、⑥医師との関係、⑦出産(出産時の異常、出産前後の体調、出産、婚姻関係含む)、⑧育児・出産後の生活、⑨その他・漠然とした不安、である。
- もっとも回答が多かったのは、①妊娠経過に関する内容で、医療機関調査は約40件、保育園調査は約110件の回答があった。その内容はたとえば「逆子が直るか」あるいは「出血し、切迫早産になった」などであった。
- 次に多かったのは、③障害に関する不安である。医療機関調査は約40件、保育園調査は約80件の回答があった。具体的には「障害を持って生まれたらどうしようかと考えた」や「五体満足かなあという心配はいつも思っていたように思う」などが挙げられる。
- そして、②妊婦の生活環境に関しても、医療機関調査は約15件、保育園調査は約20件の回答があった。その内容とは「安静といわれているのに仕事をしなくてはいけない状況」であったり、「持病があり、妊娠中薬を飲んでいた」などであった。

妊娠の経験7 胎児の状態の不安 ②不安への対処

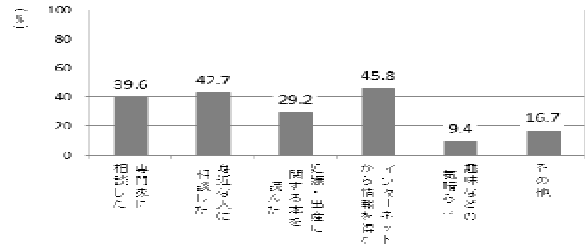
妊娠中の胎児の状態について不安になったことがあると回答した人に、「妊娠中のその不安について、どのように対処しましたか」と尋ね、6つの選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらった(複数回答)。

医療機関調査では、「インターネットから情報を得た」と「身近な人に相談する」が4割強、「専門家に相談した」がそれに続き、「妊娠・出産の本を読む」が3割であった。

保育園調査では、「専門家に相談した」が5割弱とやや多く、次いで「身近な人に相談する」、「インターネットから情報を得た」、「妊娠・出産の本を読む」の順となっている。

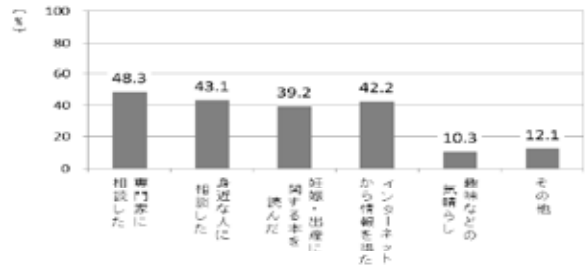
「専門家に相談した」の割合に差がみられるのは、保育園調査では医療者に限らず、保育園や子育て支援団体の保育士や看護師などの専門家も含まれているためだと考えられる。

図9 医療機関 胎児の不安への対処(複数回答)



不安ありと回答したn=96、ただし、無回答4を除く

図9 保育園 胎児の不安への対処(複数回答)



不安ありと回答したn=232、ただし、無回答10を除く

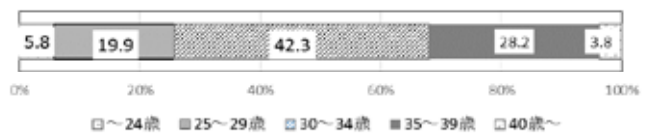
妊娠の経験8 妊娠時期・年齢

「妊娠していたのはいつですか」を尋ね、西暦年と年齢を回答してもらった。

医療機関調査では、2010～2012年の妊娠経験が75.6%、2013年16.0%と、この3年以内の経験が多い。また年齢は、30代前半が4割、30代後半が約3割となっている。

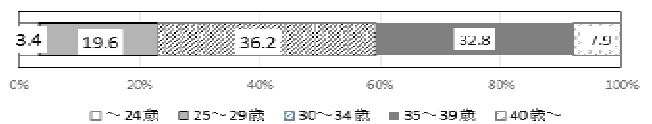
保育園調査では、2010～2012年の妊娠経験が59.0%、次に2005～2009年が36.5%となっている。年齢は、30代前半が4割弱、30代後半が3割強となっている。また、40代も1割近くになっており、全体として回答者には、いわゆる高齢出産であった人が一定数いたことが注目される。

図10 医療機関 妊娠時期(開始年齢)



n=154、ただし、無回答2を除く

図10 保育園 妊娠時期(開始年齢)



n=378

妊娠の経験9 妊娠の結果

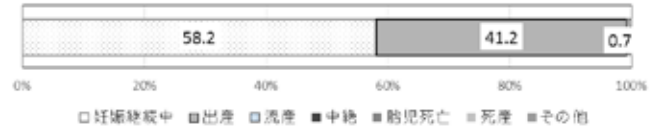
直近の妊娠について「その妊娠の結果について教えてください。」という質問に、7つの選択肢から1つ選択してもらった。

医療機関調査では、「妊娠継続中」が58.2%、「出産」が41.2%、「流産」0.7%であった。

保育園調査では、「出産」が94.6%と多く、「妊娠継続中」が2.2%、「流産」1.9%、「中絶」0.5%、「胎児死亡」0.8%となっていた。「死産」と「その他」の回答は、いずれもなかった。

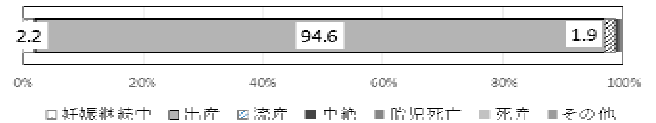
妊娠継続中の人には、妊娠週数も尋ねた。医療機関調査では、中期の方が4割、後期の方が5割となっている。保育園調査では、初期、中期、後期にほぼ等しく分かれた。

図11 医療機関 妊娠の結果



n=153、ただし、無回答3を除く

図11 保育園 妊娠の結果



n=367、ただし、無回答11を除く

妊娠経験10 妊娠経験をふりかえって（1）

妊娠経験や妊娠中の気持ちなどについて、自由記述方式で尋ねた。

- 医療機関調査の有効回答156名のうち101名に、保育園調査の有効回答378名のうち268名に記入があった。記述された内容は多岐にわたるが、妊娠中につらかったこと、不安だったこと、うれしかったこと、感謝したこと、幸せだったことなどが多く書かれていた。
- 医療機関調査では、不安・心配についての記入が30件以上、うれしさ・うれ(嬉)しい、幸せ・幸福、楽しい・楽しみ・楽しんだについての記入がそれぞれ20件以上あった。つらい(辛い)・つらさについての記入は10件以上、喜び、感謝はひと桁だった。悲しみ・かなしいという表現の回答はなかった。
- 保育園調査では、不安・心配についての記入が70件以上、うれしい(嬉しい)、幸せ・幸福がそれぞれ50件以上、楽しい・楽しみ・楽しんだ、つらい(辛い)・つらさについての記入がそれぞれ30件以上だった。喜びは20件以上、感謝、悲しみ・悲しいはそれぞれひと桁だった。ただし、この件数は、分類の枠組みを少し変えれば大きく変わる可能性がある(たとえば、「うれしさ、うれしい」と「幸せ・幸福」とをひとまとめにするなど)ため、記述の傾向を把握する参考に記載していることに留意されたい。また、これらの数値には、「つらくなかった」、「不安ではなかった」、「楽しめなかった」という全否定の表現は件数に含めなかった。「あまりつらくなかった」などの部分否定は含めた。

妊娠経験10 妊娠経験をふりかえって（2）

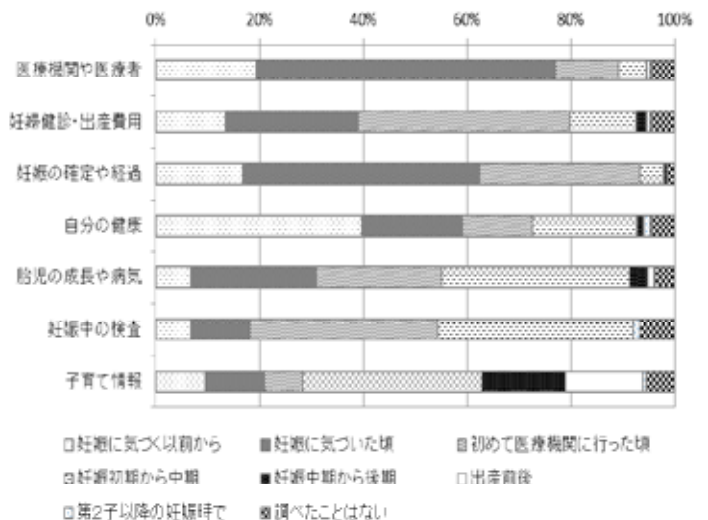
- 「不安・心配」については、妊娠中の体調、流産、胎児の状態、出産後の育児、仕事との両立、家族や同僚との関係などが多く記述されていた。
- 「うれしさ」については、妊娠したこと、出産したこと、不妊経験の後の妊娠、流産の後の妊娠の他に、夫がとても喜んだことや同僚が祝ってくれたことなども含まれていた。
- 「つらかった」ことについては、つわりがひどいときのつらさや、流産・早産の防止のための長期の入院と安静、不妊治療によるあせりなどの記述が少なくなかった。
- 身体的なこと以外に、仕事や人間関係など社会的・心理的なことに関する記述が多くみられた。さらに、妊娠中の女性に対する社会の配慮のなさ（たとえば、電車で席を譲ってもらえない、職場の環境など）を指摘する回答もあった。

妊娠経験11 妊娠について調べたこと【医療機関】

（直近の妊娠に限らず）「あなたは妊娠について、以下のようなことをいつ調べましたか」と尋ね、A.医療機関や医療者についての情報、B.妊婦健診や出産などの費用、C.妊娠の確定や経過、D.自分の健康、E.胎児の成長や病気、F.妊娠中に医療機関で行われる検査、G.産休や育休などの制度、育児支援、地域の子育て情報、H.その他、のそれぞれについて、いつ頃調べたのか、その時期を8つの選択肢から回答してもらった。

医療機関調査では、医療機関や医療者については、妊娠に気づいた頃に調べ、自分の健康については妊娠前から調べ、妊娠中の検査については妊娠初期～中期に調べ、子育て情報については妊娠中期以降に調べていた。

図12 医療機関 妊娠について調べたこと



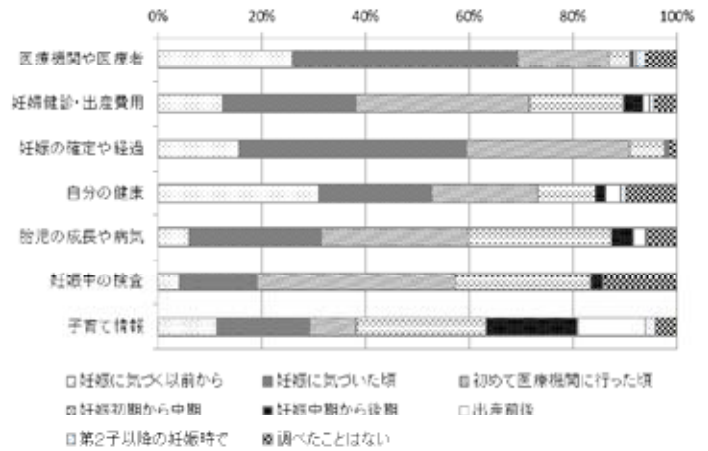
n=149(すべての項目に回答ありに限定)

妊娠経験11 妊娠について調べたこと【保育園】

(直近の妊娠に限らず)「あなたは妊娠について、以下のようなことをいつ調べましたか」と尋ね、A.医療機関や医療者についての情報、B.妊婦健診や出産などの費用、C.妊娠の確定や経過、D.自分の健康、E.胎児の成長や病気、F.妊娠中に医療機関で行われる検査、G.産休や育休などの制度、育児支援、地域の子育て情報、H.その他、のそれぞれについて、いつ頃調べたのか、その時期を8つの選択肢から回答してもらった。

保育園調査では、妊娠前に自分の健康について、医療機関や子育て情報を、妊娠に気づいた頃に医療機関の情報や妊娠の経過、胎児の成長について、医療機関受診時に検査のことや費用について調べているという傾向がみられる。

図12 保育園 妊娠について調べたこと



n=343(すべての項目に回答ありに限定)

妊娠経験12 妊娠についての情報収集ツール

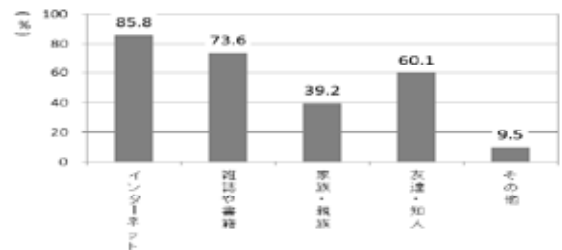
前問の妊娠に関する各種情報について、「どのように調べましたか」と質問し、「インターネット」「雑誌や書籍」「家族・親族」「友人・知人」「その他(具体的に)」から、あてはまるものすべてを選択してもらった(複数回答)。

医療機関調査で回答が多かったのは、インターネット(85.8%)、雑誌や書籍(73.6%)、友人・知人(60.1%)の順となっていた。

保育園調査でも、インターネット(80.4%)、雑誌や書籍(76.2%)、友人・知人(46.3%)の順となっていた。

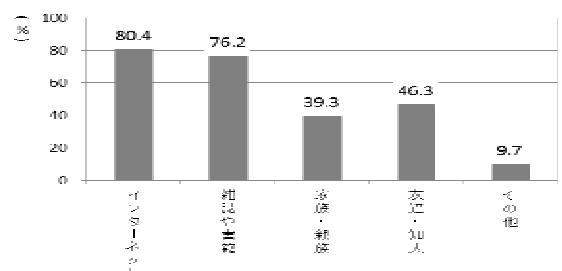
情報収集先として、友達・知人や家族・親族も選択されたが、それよりも、インターネット、雑誌や書籍が多く選択されており、重要な情報源となっていることがわかる。

図13 医療機関 情報収集ツール



n=148、ただし、無回答1を除く

図13 保育園 情報収集ツール



n=343、ただし、無回答2を除く

妊娠経験13 不妊治療について(1)

「あなたは妊娠を希望して不妊検査や治療を受けたことがありますか」と尋ね、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

- 医療機関調査では、不妊検査や治療を受けたことがある(「はい」という方が20名(13.5%)であった。そのうち通院期間について回答のあった18名について平均期間を算出すると、12.7ヵ月(範囲は1～52ヵ月)となった。
- 保育園調査では、不妊検査や治療を受けたことがある(「はい」という方が77名(20.5%)であった。そのうち通院期間について回答のあった69名について平均期間を算出すると、18.7ヵ月(範囲は1ヵ月～12年)となった。

妊娠経験13 不妊治療について(2)

「差し支えなければ、どのような検査や治療をしたか簡単に教えてください」と尋ねた。

- 医療機関調査では、妻が不妊検査を受けたという記述が一番多く、10数件あった。他に多かったのはタイミング療法が約10件、夫の不妊検査が約10件、排卵誘発剤が約10件、人工授精と体外受精がそれぞれ10件未満、顕微授精もあった。
- 保育園調査では、妻が不妊検査を受けたという記述が一番多く、約50件あった。夫の検査は約30件だった。他に多かったのはタイミング療法が約40件、排卵誘発剤が約30件、ただし、人工授精、体外受精を受けていると記述しているが、排卵誘発剤の利用については記入していない人が少なくなかったため、実際にはもっと多いと思われる。人工授精と体外受精がそれぞれ約10件、顕微授精が数件あった。「不育症」も数件あった。
- 中には、「体外受精」とだけ書かれていて、それ以前に実施した検査や治療が記入されていない回答がいくつもあった。実際に、受けた検査や治療であっても記入されていないもののがかなりあると思われる。ここでの分析は記入されたものだけを対象としている。
- どちらの調査でも「ブライダルチェックの結果、不妊の原因が見つかった」という回答がわずかながらあった。
- 現在の年齢や妊娠時期に違いがあるが、現在、子どもがいる保育園調査でも全体の2割の方が何らかの検査や治療を受けた経験があるという結果であった。